

地歴公民科「日本史B」学習指導案

平成23年10月17日(月)～平成23年10月31日(月)

〇〇 高等学校2年〇組

指導者 教諭 古川 整

I 単元名 第2部「中世」 第5章「武家社会の成長」

II 単元の考察

1 単元観

本単元では、鎌倉幕府の滅亡から群雄割拠の戦国時代に至る、14世紀から16世紀にかけての激動の時期について学習する。ここでは、封建的主従関係を基盤とする武家政権が京都の公家政権の権限を吸収し、凌駕し、そして混乱の時代に移り変わることを理解させたい。また、武士の政治権力が確立するとともに民衆の中にも新しい時代への動きが芽生えてきたことや、明国を中心とした東アジア世界との交流が進み、琉球王国は中継貿易が盛んになり、国内でも流通経済が進展していったことも理解させたい。このような学習を通して、生徒は、政権が交代する背景や原因について考察し理解すること、経済の発展を背景として民衆が力を強め、土一揆や一向一揆に参加することで動乱が複雑化したこと、そして、その経済発展は商工業のみならず農林漁業の発達を促したことに気付くことができるであろう。

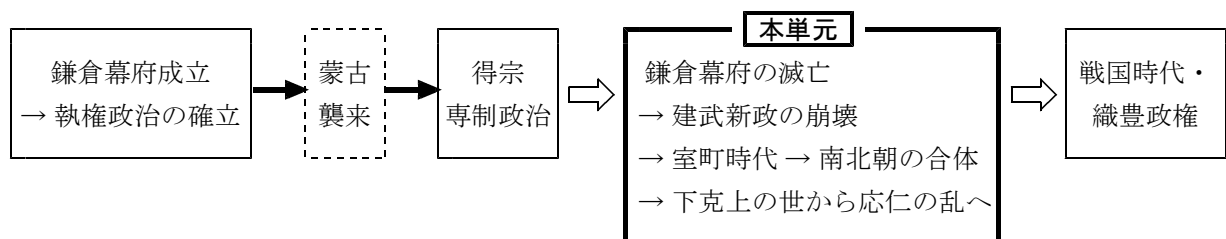
本単元は政権を担う政治機構がめまぐるしく変化する時代である。鎌倉幕府が滅亡し、建武新政が崩壊し、南北朝の動乱へと続く。室町幕府は一時的に安定するものの、15世紀以降は再び混迷の度を増していく。歴史的思考力、すなわち歴史的事象の意味や意義を解釈・評価し、実生活で活用する方法を考える力を高めることをねらいとした本研究においては、政権が長期間安定している時代よりも短期間に替わる時代の方が「教訓」を読み取るうえで有効であると感じた。成功よりも失敗した経験からのほうがより多くの「なぜ〜か」という疑問を生み出すことができ、その疑問を解決することで生徒自身のより良い未来へとつなげることができるからである。本単元は、短い学習期間の中で、歴史的思考力を効率よく高めることができる最適な単元であると考えている。

2 生徒の実態

受講する生徒は日本史が受験に必要な科目である生徒が大半であるため、学習に対する姿勢も意欲的であり、授業への取組も真面目である。歴史的事象への関心も決して低くはないが、史実の前後関係や時代背景を問われると弱い。つまり「この事象の背景や原因は何か」あるいは「この結果、何がどう変わったのか」というような質問に対しては積極的に発言できない(しない)生徒が多く、また「日本史は覚えてしまえばいい」と思っている生徒も見受けられる。このため、一方的な講義形式ではない双方向性のある授業や、生徒自身に考えさせ、そしてその考えを深めることを時間内に行う必要性を感じるが多い。

1年次には世界史Aと現代社会(ともに2単位)を履修したため、高校日本史を学ぶのは初めてである。中学校での既習事項がある程度知識として定着していることを確認しつつ、生徒はこの時代について改めて学び直すという前提で授業を展開し、まずは基礎・基本の確実な習得を目指す。

3 単元の系統性



前頁図示のとおり、生徒は前単元において「鎌倉幕府の成立」で武士による本格的な政権の誕生を理解し、幕府内の実権の推移と幕府弱体化の原因やその過程について既習した。本単元では、前単元での既習事項を踏まえ、建武新政の短期間での崩壊や、室町幕府が強固な政権を確立できず、守護大名の連合政権となった原因や過程および社会経済史を概観する。そして本単元後には「織豊政権」で収束に向かう戦国期と、関ヶ原の戦いを契機とする「幕藩体制の確立（江戸幕府の成立）」の学習へとつながることになる。

Ⅲ 指導目標と評価規準

1 単元の指導目標

- ①「なぜ～か」という発問や資料集の活用を通じて、鎌倉幕府崩壊から戦国時代までの短期間における政治権力の移り変わりや諸問題の解決に関心をもたせる。【関心・意欲・態度】
- ②政権崩壊の原因とその崩壊過程、そして崩壊後に何がどう変わったかという結果などから教訓を読み取り、自ら課題を発見させ、その解決方法を自らの状況に照らし合わせて考えさせる。【思考・判断】
- ③『梅松論』や『善隣国宝記』など史料の読み取りを通して、後醍醐天皇や足利将軍の政治的意図に気付かせ、そこから歴史的事象の教訓を自らの力で読み取らせ、表現させる。【技能・表現】
- ④鎌倉幕府の滅亡から戦国時代までの基本的な歴史的事象について、戦乱や内紛を境に生じた変化や、その事象の原因や背景に着目させながら理解させる。【知識・理解】

2 単元の評価規準

関心・意欲・態度	武家社会が成長した歴史的背景について関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、資料を活用しながら自ら発見した課題の解決方法を主体的に考えている。
思考・判断	武家社会の成長に関する歴史的事象から見いだした課題を、時代的特徴を踏まえて多面的・多角的に考察し、自らの課題に置き換えて解決策を適切に表現している。
技能・表現	14世紀から16世紀の歴史的事象について、写真や諸資料の読解を通じて、その事象の原因・経過・結果・歴史的意義を読み取り、適切に表現することができる。
知識・理解	鎌倉幕府の滅亡から建武新政、室町幕府の成立を経て戦国時代に至るまでの基本的な歴史的事象について、その原因や背景を踏まえた結果の知識を身に付けている。

Ⅳ 指導方針

本校は大学を受験する生徒がほとんどであり、かつ日本史履修者の大多数がセンター試験で日本史を受験する生徒である。基礎的な知識の確実な定着を図るためにも、内容的に深みのある語句、必ず知っておくべき知識を優先して扱いながら、教科書に記載されていないような受験用の細かい語句に関しても適宜取り上げ、生徒の興味・関心を喚起し、学習意欲を高める。

学習の順序としては基本的に教科書に沿って進めるが、関連性の強い事柄は併せて扱うなど、歴史的事象の関連性、及び現在の我々との関連性を意識し、強調しながら授業を展開する。

以上のことを前提に、具体的には次の①～④を行う。

- ①本時の授業のねらいを授業時間の最後に必ず確認し、知識の確実な習得を図る。
- ②内容を精選して説明時間の短縮に極力努め、生徒の思考・表現に関する活動時間を確保する。
- ③可能な限り「なぜ～か」という発問を行って思考を促し、主体的に授業に取り組めるようにする。
- ④机間支援を適宜行って、自分の考えが分からない・書けない生徒に対して助言する。

V 指導と評価の計画

過程	時間	主な学習活動	支援及び留意点	評価の観点・評価方法・評価項目 ◆:おおむね満足できる ◇:十分満足できる
基本的な歴史的事象の理解	5・5	○鎌倉幕府の滅亡から建武新政の崩壊までの歴史的事象の説明を聞き、プリントの空欄を補充する。 ○内容から「気付いたこと・学んだこと」を自分の言葉で記述する。	○両統迭立から後醍醐天皇を中心とした倒幕の動き、そして成立した建武新政とその崩壊までの様子を説明する。その際、生徒が明確化した不明な語句と内容の疑問点を解決できるように配慮する。 ○ワークシート①の記述例を参考にさせながら、授業内容から生徒が気付いたこと・学んだことを「気付いたこと・学んだこと」シートに記述させる。	【知識・理解】（観察、授業プリント） ◆鎌倉幕府滅亡から建武新政崩壊までの基本的事象を理解できている。 ◇鎌倉幕府の滅亡から建武新政の崩壊までの基本的事象について、その原因や背景を踏まえながら理解し、知識を身に付けている。 【技能・表現】（「気付いたこと・学んだこと」） ◆「気付いたこと・学んだこと」が一つ記述できており、本時のねらいを理解したと認められる。 ◇本時のねらいをとらえた「気付いたこと・学んだこと」が二つ以上記述できており、内容も教訓に転化できそうなものである。
		○南北朝の分裂から合体までの歴史的事象の説明を聞き、プリントの空欄を補充する。 ○内容から「気付いたこと・学んだこと」を自分の言葉で記述する。	○南北朝の分裂、観応の擾乱、三代将軍義満による南北朝合体までの様子を説明する。守護大名が登場する背景については、考察を深められるような発問を行う。その際、生徒が明確化した不明な語句と内容の疑問点を解決できるように配慮する。 ○ワークシート①の記述例を参考にさせながら、授業内容から生徒が気付いたこと・学んだことを「気付いたこと・学んだこと」シートに記述させる。	【知識・理解】（観察、授業プリント） ◆南北朝の分裂から合体までの基本的事象を理解できている。 ◇南北朝の分裂から合体までの基本的事象について、その原因や背景を踏まえながら理解し、知識を身に付けている。 【技能・表現】（「気付いたこと・学んだこと」） ◆「気付いたこと・学んだこと」が一つ記述できており、本時のねらいを理解したと認められる。 ◇本時のねらいをとらえた「気付いたこと・学んだこと」が二つ以上記述できており、内容も教訓に転化できそうなものである。
		○南北朝合体から応仁の乱までの歴史的事象の説明を聞き、プリントの空欄を補充する。 ○室町幕府と鎌倉幕府の職制を比較し、その差異点を記述する。 ○内容から「気付いたこと・学んだこと」を自分の言葉で記述する。	○足利義満から義政までの政治史を、歴史的事象の背景・経過・結果を踏まえて説明する。その際、生徒が明確化した不明な語句と内容の疑問点を解決できるように配慮する。 ○侍所や政所に着目させ、鎌倉時代と比べて重要度が減少した役職があることに気付かせるような発問を行う。 ○ワークシート①の記述例を参考にさせながら、授業内容から生徒が気付いたこと・学んだことを「気付いたこと・学んだこと」シートに記述させる。	【知識・理解】（観察、授業プリント） ◆室町幕府の職制と応仁の乱までの政治史について、基本的事象を理解できている。 ◇室町幕府の職制と応仁の乱までの政治史について、その原因や背景を踏まえながら基本的事象を理解し、知識を身に付けている。 【技能・表現】（「気付いたこと・学んだこと」） ◆「気付いたこと・学んだこと」が一つ記述できており、本時のねらいを理解したと認められる。 ◇本時のねらいをとらえた「気付いたこと・学んだこと」が二つ以上記述できており、内容も教訓に転化できそうなものである。
		○「惣村の成立と一揆」の内容についての説明を聞き、プリントの空欄を補充する。	○惣村の成立と実態、それにもなう農業の発達と一揆の形成について、当時の社会的背景と関連付けて説明する。その際、生徒が明確化した不明な語句と内容の疑問点を解決できるように配慮する。	【知識・理解】（観察、授業プリント） ◆惣村の成立と一揆の発生について、その基本的事象を理解できている。 ◇惣村の成立と一揆の発生について、前時までの内容を踏まえて原因や背景を関連付けながら基本的事象を理解し、知識を身に付けている。

		○内容から「気付いたこと・学んだこと」を自分の言葉で記述する。	○ワークシート①の記述例を参考にさせながら、授業内容から生徒が気付いたこと・学んだことを「気付いたこと・学んだこと」シートに記述させる。	【技能・表現】（「気付いたこと・学んだこと」） ◆「気付いたこと・学んだこと」が一つ記述できており、本時のねらいを理解したと認められる。 ◇本時のねらいをとらえた「気付いたこと・学んだこと」が二つ以上記述できており、内容も教訓に転化できそうなものである。
		○「商工業の発達」から「琉球と蝦夷ヶ島」までの歴史的事象の説明を聞き、プリントの空欄を補充する。 ○内容から「気付いたこと・学んだこと」を自分の言葉で記述する。	○商工業の発達にともなう座の結成について、明国を中心とした東アジア諸国との交易拡大と関連付けて説明する。その際、生徒が明確化した不明な語句と内容の疑問点を解決できるように配慮する。 ○ワークシート①の記述例を参考にさせながら、授業内容から生徒が気付いたこと・学んだことを「気付いたこと・学んだこと」シートに記述させる。	【知識・理解】（観察、授業プリント） ◆室町期の商工業の発達と明国、朝鮮、琉球、蝦夷ヶ島との交易について基本的事象を理解できている。 ◇室町期の商工業の発達と明国、朝鮮、琉球、蝦夷ヶ島との交易について、原因や背景、その後の変遷などを踏まえながら基本的事象を理解し、知識を身に付けている。 【技能・表現】（「気付いたこと・学んだこと」） ◆「気付いたこと・学んだこと」が一つ記述できており、本時のねらいを理解したと認められる。 ◇本時のねらいをとらえた「気付いたこと・学んだこと」が二つ以上記述できており、内容も教訓に転化できそうなものである。
		検証① 教科書の「不明な語句」と「内容の疑問点」を授業前に明確にし、それらがフィードバックされた授業を受け、授業後に「気付いたこと・学んだこと」を記述する活動は、基本的な歴史的事象を理解することに有効であったか。		
歴史的 事象から 教訓を 読み取る 演習	0・5	○これまでの授業で記入した「気付いたこと・学んだこと」を整理する。 ○ケーススタディワークシートを使用し、「気付いたこと・学んだこと」の文を「人」を主語にした文に書き換える。 ○「人」を主語にした文を「私（生徒自身）」を主語にした文に書き換える。	○生徒自身が最も良く読み取れたと思う「気付いたこと・学んだこと」を一つ選ばせる。 ○「道鏡による仏教政治が、それまでの律令政治を混乱させた」という文章を、「人は、正しいことをしたつもりでも、独りよがりになっている場合がある」という文に書き換えられることを例示する。 ○「人は、正しいことをしたつもりでも、独りよがりになっている場合がある」という文章が、「私は、他の人の言うことにもきちんと耳を傾けよう」と書き換えられることを例示する。	【関心・意欲・態度】（観察、ワークシート） ◆教訓を読み取ることを意味を理解してワークシートに意欲的に取り組み、教訓の一つを読み取ることができている。 ◇教訓を読み取るとは今後の自分自身に生かせることをよく理解してワークシートに意欲的に取り組み、複数の教訓を読み取ることができている。 【技能・表現】（「気付いたこと・学んだこと」） ◆「気付いたこと・学んだこと」の文章を、友人と相談しながら自らの教訓として読み取ることができている。 ◇「気付いたこと・学んだこと」の文章を、自らの力で実践可能な教訓に読み取ることができている。
		検証② 授業後に記述した「気付いたこと・学んだこと」から読み取れる内容を「(一般的な)人」を主語にして表現し、さらにそれを自らの教訓へと段階的に置き換えて表現する活動は、歴史的事象から教訓を読み取ることにより有効であったか。		
教訓の 実生	1	○読み取った教訓が、実生活のどのような場面でどう生かせるのかを考える。	○ケーススタディワークシートを使用する。記述例を示しながら、教訓の実生活での活用方法を場面や状況を設定して具体的に考察できるようにする。思いつく状況をいくつか	【思考・判断】（ワークシート） ◆歴史的事象を踏まえて読み取った教訓が実生活で活用できる場面を三つ程度記述でき、一つ以上がすぐに実践可能な内容である。 ◇歴史的事象を踏まえて読み取った

活 へ の 活 用 を 考 え る 演 習	○教訓と活用方法例を 学び合う。	も挙げるように指示する。 ○各自で読み取った教訓とその 活用方法例を学び合い、多面的・多角的な考え方に気付き、 歴史的思考力を高められるようにする。	教訓が実生活で活用できる場면을 五つ以上記述でき、四つ以上がすぐ に実践可能な内容である。 【関心・意欲・態度】(観察、ワークシート) ◆実践可能な友人の活用方法例を三 つ程度収集し、多面的・多角的な 考え方に気付き、歴史的思考力を 高めることができた。 ◇実践可能な友人の活用方法例を五 つ以上収集し、より多面的・多角 的な考え方に気付き、歴史的思考 力を高めることができた。
	検証③ 歴史的事象から読み取った教訓を自らの実生活に生かせる場面を想定して考えるケーススタディを行い、それを学び合う活動は、教訓を実生活で活用する方法を考える力を高めることに有効であったか。		

VI 本時の学習（本時は1／7時）

1 ねらい

○鎌倉幕府の滅亡から建武新政の崩壊までの基本的な歴史的事象を、原因・経過・結果を踏まえて理解し、「気付いたこと・学んだこと」が複数記述できるようにする。

2 準備

生徒：教科書（山川出版社『詳説日本史B』）、資料集「最新日本史図表」と「日本史重要史料175」（ともに第一学習社）、ノート

教師：教科書、資料集、フィードバックシート、授業プリント、ワークシート

※あらかじめワークシート①を配付して学習内容を説明し、本時の内容の教科書を読ませてワークシート②を記述させておく。さらに、本時の内容の不明点をまとめたフィードバックシートを作成しておく。

3 展開

学習内容	主な学習活動	時間	支援及び留意点	評価の観点・方法・項目 ◆:おおむね満足できる ◇:十分に満足できる
鎌倉幕府の滅亡 ①両統迭立の意味 ②後醍醐天皇の討幕運動 建武の新政 ①職制 ②崩壊の原因	1 本時の内容の不明な語句と内容の疑問点を確認する。	5	○フィードバックシートを配付する。周囲の友だちと確認し合うよう促す。	【知識・理解】（観察、授業プリント） ◆鎌倉幕府の滅亡から建武新政の崩壊までの基本的事象を理解できている。 ◇鎌倉幕府の滅亡から建武新政の崩壊までの基本的事象について、その原因や背景を踏まえながら理解し、知識を身に付けている。 【技能・表現】 （「気付いたこと・学んだこと」） ◆「気付いたこと・学んだこと」が一つ記述でき、本時のねらいを理解したと認められる。 ◇本時のねらいを捉えた「気付いたこと・学んだこと」が二つ以上記述できており、内容も教訓に転化できそうなものである。
	2 鎌倉幕府の滅亡から建武新政崩壊までの経過について説明を聞く。	10	○生徒が示した不明な語句の多寡と内容の疑問点の重要度に応じて解決するよう配慮する。	
	3 建武新政が短期間で崩壊した原因を、その施策や「二条河原落書」、『梅松論』などの史料から考える。	15	○史料『梅松論』の中の「朕が新儀は未来の先例たるべし」に注目させ、このような為政者に対する印象をヒントにする。	
	4 発問「史料『梅松論』にある『古の荒廃』とは何か」に答える。		○鎌倉幕府末期の状況を思い出させるような説明を行い、考察を促す。	
	5 本時の授業内容から気付いたことや学んだことを「気付いたこと・学んだこと」シートに自分の言葉で記述する。	5	○ワークシート①の記述例を参考にさせる。 ○適宜机間支援を行い、生徒が記述できるよう助言したり、記述できた生徒の内容を紹介したりする。	
	6 次時の授業範囲の不明な語句と内容の疑問点をワークシート②に記述する。	15	○自らの記述内容と区別させるため、紹介されたものを記述する場合には朱書きするよう指示する。	

VI 本時の学習（本時は2／7時）

1 ねらい

○南北朝が分裂し、三代将軍義満の時代に合体するまでの基本的な歴史的事象を、原因・経過・結果を踏まえて理解し、「気付いたこと・学んだこと」が複数記述できるようにする。

2 準備

生徒：教科書（山川出版社『詳説日本史B』）、資料集「最新日本史図表」と「日本史重要史料175」（ともに第一学習社）、ノート

教師：教科書、資料集、フィードバックシート、授業プリント、ワークシート

3 展開

学習内容	主な学習活動	時間	支援及び留意点	評価の観点・方法・項目 ◆:おおむね満足できる ◇:十分に満足できる
南北朝の動乱 ①分裂の背景 ②観応の擾乱 ③南北朝の合体 守護大名と国人一揆 ①守護大名の成立 ②守護と国人	1 本時の内容の不明な語句と内容の疑問点を確認する。	5	○フィードバックシートを配付する。周囲の友だちと確認し合うよう促す。	【知識・理解】（観察、授業プリント） ◆南北朝分裂から合体までの基本的事象を理解できている。 ◇南北朝分裂から合体までの基本的事象について、その原因や背景を踏まえながら理解し、知識を身に付けている。 【技能・表現】 （「気付いたこと・学んだこと」） ◆「気付いたこと・学んだこと」が一つ記述でき、本時のねらいを理解したと認められる。 ◇本時のねらいを捉えた「気付いたこと・学んだこと」が二つ以上記述できており、内容も教訓に転化できそうなものである。
	2 南北朝の分裂から合体までの経過について説明を聞く。	10	○生徒が示した不明な語句の多寡と内容の疑問点の重要度に応じて解決するよう配慮する。	
	3 守護大名が登場した背景について、板書した文章の空欄を補充する活動を通して考察する。	15	○次の文を板書する。 「 守護が権力を拡大できたのは、幕府が、〇〇に対抗するための〇〇にしたかったため 」 ○自分の言葉で記述するように指示する。 ○挙手を促し、四～五名の生徒に発表させる。	
	4 本時の授業内容から気付いたことや学んだことを「気付いたこと・学んだこと」シートに自分の言葉で記述する。	5	○ワークシート①の記述例を参考にさせる。 ○適宜机間支援を行い、生徒が記述できるよう助言したり、記述できた生徒の内容を紹介したりする。	
	5 次時の授業範囲の不明な語句と内容の疑問点をワークシート②に記述する。	15	○自らの記述内容と区別させるため、紹介されたものを記述する場合には朱書きするよう指示する。	

Ⅵ 本時の学習（本時は3／7時）

1 ねらい

○南北朝の合体から応仁の乱に至るまでの基本的な歴史的事象を、原因・経過・結果を踏まえて理解し、「気付いたこと・学んだこと」が複数記述できるようにする。

2 準備

生徒：教科書（山川出版社『詳説日本史B』）、資料集「最新日本史図表」と「日本史重要史料175」（ともに第一学習社）、ノート

教師：教科書、資料集、フィードバックシート、授業プリント、ワークシート

3 展開

学習内容	主な学習活動	時間	支援及び留意点	評価の観点・方法・項目 ◆:おおむね満足できる ◇:十分に満足できる
室町幕府 ①職制 ②義満から義政までの政治史 ③下克上の風潮と一揆	1 本時の内容の不明な語句と内容の疑問点を確認する。	5	○フィードバックシートを配付する。周囲の友だちと確認し合うよう促す。	【知識・理解】（観察、授業プリント） ◆室町幕府の職制と応仁の乱までの政治史について、基本的な事象を理解できている。 ◇室町幕府の職制と応仁の乱までの政治史について、その原因や背景を踏まえつつ基本的な事象を理解し、知識を身に付けている。 【技能・表現】 （「気付いたこと・学んだこと」） ◆「気付いたこと・学んだこと」が一つ記述でき、本時のねらいを理解したと認められる。 ◇本時のねらいを捉えた「気付いたこと・学んだこと」が二つ以上記述できており、内容も教訓に転化できそうなものである。
	2 室町幕府の職制を鎌倉幕府のものと比較して考察し、差異点を記述する。	10	○生徒が示した不明な語句の多寡と内容の疑問点の重要度に応じて解決するよう配慮する。 ○侍所、政所、問注所、評定衆に着目させ、その役職が果たすべき機能が拡大したか縮小したかの違いに気付かせる。	
	3 南北朝合体から応仁の乱までの経過についての説明を聞き、「 応仁の乱が発生した背景にある、大きく変わった“相続形態”とは何か 」という発問に答える。	15	○経済的相続と家督相続の二つの点で当てはまる、というヒントを与える。 ○自分の言葉で記述するように指示する。 ○挙手を促し、四～五名の生徒に発表させる。	
	4 本時の授業内容から気付いたことや学んだことを「 気付いたこと・学んだこと 」シートに自分の言葉で記述する。	5	○ワークシート①の記述例を参考にさせる。 ○適宜机間支援を行い、生徒が記述できるよう助言したり、記述できた生徒の内容を紹介したりする。	
	5 次時の授業範囲の不明な語句と内容の疑問点をワークシート②に記述する。	15	○自らの記述内容と区別させるため、紹介されたものを記述する場合には朱書きするよう指示する。	

VI 本時の学習（本時は4／7時）

1 ねらい

○惣村が自然発生的に生まれ、自治・自立的な村へと発展して結合を強めていった背景と、惣村が果たした歴史的意義について理解し、「気付いたこと・学んだこと」が複数記述できるようにする。

2 準備

生徒：教科書（山川出版社『詳説日本史B』）、資料集「最新日本史図表」と「日本史重要史料175」（ともに第一学習社）、ノート

教師：教科書、資料集、フィードバックシート、授業プリント、ワークシート

3 展開

学習内容	主な学習活動	時間	支援及び留意点	評価の観点・方法・項目 ◆:おおむね満足できる ◇:十分に満足できる
惣村の形成と土一揆 ①惣村の実態 ②徳政一揆の形成 農業の発達 ①発達の背景 ②商品経済の農村への浸透	1 本時の内容の不明な語句と内容の疑問点を確認する。	5	○フィードバックシートを配付する。周囲の友だちと確認し合うよう促す。	【知識・理解】（観察、授業プリント） ◆惣村の成立と一揆の発生について、その基本的事象を理解できている。 ◇惣村の成立と一揆の発生について、前時までの内容を踏まえて原因や背景を関連付けながら基本的事象を理解し、知識を身に付けている。 【技能・表現】 （「気付いたこと・学んだこと」） ◆「気付いたこと・学んだこと」が一つ記述でき、本時のねらいを理解したと認められる。 ◇本時のねらいを捉えた「気付いたこと・学んだこと」が二つ以上記述できており、内容も教訓に転化できそうなものである。
	2 惣村が成立した背景と実態、それに伴う農業の発達と一揆の形成について説明を聞き、惣村の果たした役割とその意義について考察する。	25	○生徒が示した不明な語句の多寡と内容の疑問点の重要度に応じて解決するように配慮する。 ○惣村がこの後、どのような役割を果たしていくかについて、正長の徳政一揆とともに、次単元の内容である天文法華の乱や信長との争いの部分の教科書記述を一読させることで、学習内容を発展させる。	
	3 本時の授業内容から気付いたことや学んだことを「気付いたこと・学んだこと」シートに自分の言葉で記述する。	5	○ワークシート①の記述例を参考にさせる。 ○適宜机間支援を行い、生徒が記述できるよう助言したり、記述できた生徒の内容を紹介したりする。	
	4 次時の授業範囲の不明な語句と内容の疑問点をワークシート②に記述する。	15	○自らの記述内容と区別させるため、紹介されたものを記述する場合には朱書きするよう指示する。	

VI 本時の学習（本時は5／7時）

1 ねらい

○室町時代の商工業の発達について、農村への商品経済の浸透と明国との交易との二つの観点から理解し、「気付いたこと・学んだこと」が複数記述できるようにする。

2 準備

生徒：教科書（山川出版社『詳説日本史B』）、資料集「最新日本史図表」と「日本史重要史料175」（ともに第一学習社）、ノート

教師：教科書、資料集、フィードバックシート、授業プリント、ワークシート

3 展開

学習内容	主な学習活動	時間	支援及び留意点	評価の観点・方法・項目 ◆:おおむね満足できる ◇:十分に満足できる
商工業の発達 ①座の結成 ②貨幣経済の浸透 東アジアとの交易 ①日明貿易	1 本時の内容の不明な語句と内容の疑問点を確認する。	5	○フィードバックシートを配付する。周囲の友だちと確認し合うよう促す。	【知識・理解】（観察、授業プリント） ◆室町期の商工業の発達と明国との交易について、基本的事象を理解できている。 ◇室町期の商工業の発達と明国との交易について、原因や背景、その後の変遷などを踏まえながら基本的事象を理解し、知識を身に付けている。 【技能・表現】 （「気付いたこと・学んだこと」） ◆「気付いたこと・学んだこと」が一つ記述でき、本時のねらいを理解したと認められる。 ◇本時のねらいを捉えた「気付いたこと・学んだこと」が二つ以上記述できており、内容も教訓に転化できそうなものである。
	2 室町期に商工業が発達した背景について説明を聞き、農村の発達が商工業の発展の要因になった理由を考察する。	10	○生徒が示した不明な語句の多寡と内容の疑問点の重要度に応じて解決するよう配慮する。 ○農業生産力拡大によって生まれた余剰生産物が売買の対象になり、農民の需要が拡大したこと、明から流入した銅銭が国内需要をさらに拡大させたことに気付かせる。	
	3 日明貿易についての説明を聞き、「義持が日明貿易を中断した理由は」と「貿易の主体が幕府から有力守護大名へと変化した理由は」の二つの発問に答える。	15	○義満に実権を握られていた義持の心情を考察させることや、「国王」についての認識の差異を説明し、ヒントにする。 ○応仁の乱による影響を思い出させる。	
	4 本時の授業内容から気付いたことや学んだことを「気付いたこと・学んだこと」シートに自分の言葉で記述する。	5	○ワークシート①の記述例を参考にさせる。 ○適宜机間支援を行い、生徒が記述できるよう助言したり、記述できた生徒の内容を紹介したりする。	
	5 次時の授業範囲の不明な語句と内容の疑問点をワークシート②に記述する。	15	○自らの記述内容と区別させるため、紹介されたものを記述する場合には朱書きするよう指示する。	

Ⅵ 本時の学習（本時は6／7時）

1 ねらい

- 「気付いたこと・学んだこと」の文章の主語を変化させて書き換える作業を通じて、生徒自身の今後
に役立つ教訓を複数読み取れるようにする。

2 準備

生徒：教科書（山川出版社『詳説日本史B』）、資料集「最新日本史図表」と「日本史重要史料175」
（ともに第一学習社）、ノート

教師：教科書、資料集、フィードバックシート、授業プリント、ワークシート、パワーポイント

3 展開

学習内容	主な学習活動	時間	支援及び留意点	評価の観点・方法・項目 ◆:おおむね満足できる ◇:十分に満足できる
東アジアとの交易 ②日朝貿易 琉球と蝦夷ヶ島 ①琉球王国の繁栄 ②蝦夷ヶ島との交易 段階的な教訓の読み取り	1 本時の内容の不明な語句と内容の疑問点を確認する。	5	○フィードバックシートを配付する。周囲の友だちと確認し合うよう促す。	【知識・理解】（観察、授業プリント） ◆室町期の商工業の発達と朝鮮、琉球、蝦夷ヶ島との交易について、基本的事象を理解できている。 ◇室町期の商工業の発達と朝鮮、琉球、蝦夷ヶ島との交易について、原因や背景、その後の変遷などを踏まえて基本的事象を理解し、知識を身に付けている。 【関心・意欲・態度】（観察、ケーススタディワークシート） ◆教訓を読み取ることを意味を理解してワークシートに意欲的に取り組み、教訓の一つ読み取ることができている。 ◇教訓を読み取ることは今後の自分自身に生きることをよく理解してワークシートに意欲的に取り組み、複数の教訓を読み取ることができている。 【技能・表現】（「気付いたこと・学んだこと」） ◆「気付いたこと・学んだこと」の文章を、友人と相談しながら自らの教訓として読み取ることができている。 ◇「気付いたこと・学んだこと」の文章を、自らの力で実践可能な教訓に読み取ることができている。
	2 東アジアとの交易拡大について、朝鮮・琉球・蝦夷ヶ島との交易を中心に説明を聞く。	7	○生徒が示した不明な語句の多寡と内容の疑問点の重要度に応じて解決するよう配慮する。	
	3 日朝貿易と日明貿易の違いについて考察する。	5	○明の海禁政策について説明し、キーワードにする。	
	4 対馬の位置や、取引された“北海の産物”を視覚的に理解する。	5	○パワーポイントを適宜使用し、視覚的理解を促す。	
	5 木綿と麻の両方に触り、手触りを比較する。	3	○木綿の衣服は吸湿性に優れていることを説明する。	
	6 「気付いたこと・学んだこと」の記述から授業内容を思い出せるか確認させ、最も良く記述できた「気付いたこと・学んだこと」を一つ選ぶ。	5	※以下①～③は、右記「主な学習活動」の6～8に共通する支援及び留意点である。 ①ケーススタディワークシートを使用する。記述例を参考にさせる。	
	7 「気付いたこと・学んだこと」の文を「人」を主語にした文に書き換える。	10	②適宜机間支援を行い、すべての生徒が記述できるように、「気付いたこと・学んだこと」を振り返らせて助言する。	
	8 「人」を主語にした文を「私（生徒自身）」を主語にした文に書き換える。	10	③文章の書き換え作業が難航している生徒には、周辺の友人と相談できる機会を設ける。	

Ⅵ 本時の学習（本時は7／7時）

1 ねらい

○歴史的事象から生徒自身が読み取った教訓を実生活で活用できるものにするために、活用方法例を考察し、それを学び合うことを通じて歴史的思考力を高める。

2 準備

生徒：教科書（山川出版社『詳説日本史B』）、ワークシート、ケーススタディワークシート

教師：教科書、授業プリント、ワークシート、ケーススタディワークシート

3 展開

学習内容	主な学習活動	時間	支援及び留意点	評価の観点・方法・項目 ◆:おおむね満足できる ◇:十分に満足できる
教訓の活用方法例の考察	1 読み取った教訓が実生活のどの場面でどのように生かせるのか考える。	20	○ケーススタディワークシートを使用する。 ○記述例を示し、実生活の場面や状況を設定して具体的に考察できるように促す。 ○思いつく状況をいくつでも挙げるように指示する。 ○適宜机間支援を行い、記入できない生徒が記述できるように助言する。	【思考・判断】（ワークシート） ◆歴史的事象を踏まえて、読み取った教訓が実生活で活用できる場面を三つ程度記述でき、うち一つ以上がすぐ実践可能な内容である。 ◇歴史的事象を踏まえて、読み取った教訓が実生活で活用できる場面を五つ以上記述でき、四つ以上がすぐ実践可能な内容である。
教訓と活用方法例の学び合い	2 各自で読み取った教訓とその活用方法例を友人と学び合う。	30	○多面的・多角的な考え方に気づき、歴史的思考力をさらに高められるように促す。 ○適宜机間支援を行い、生徒の学び合っている様子を紹介することで、他の生徒の参考になるようにする。	【関心・意欲・態度】（観察、ワークシート） ◆実践可能な友人の活用例を三つ程度収集し、多面的・多角的な考え方に気づき、歴史的思考力を高めることができています。 ◇実践可能な友人の活用例を五つ以上収集し、より多面的・多角的な考え方に気づき、歴史的思考力を高めることができています。

ワークシート①②

ワークシート①

「不明な語句」、「内容の疑問点」、
「気付いたこと・学んだこと」の記入

以下の文章を読みなさい。

孝謙天皇の時代には、藤原仲麻呂が光明皇太后と結んで政界で勢力をのばした。橘諸兄の子の奈良麻呂は仲麻呂を倒そうとするが、逆に滅ぼされた（橘奈良麻呂の変）。仲麻呂は淳仁天皇を擁立して即位させると恵美押勝の名をたまり、破格の経済的特権を得るとともに権力を独占し、太政大臣にまでのぼった。

恵美押勝は、後ろ盾であった光明皇太后が死去すると孤立を深め、孝謙太上天皇が自分の看病にあたった僧道鏡を寵愛して淳仁天皇と対立すると、危機感をつのらせて764年挙兵したが、太上天皇側に先制され滅ぼされた（恵美押勝の乱）。のちに淳仁天皇は廃されて淡路に流され、孝謙太上天皇が重祚して称徳天皇となった。

道鏡は称徳天皇の支持を得て太政大臣・僧侶、さらに法王となって権力をにぎり仏教政治を行った。769年には、称徳天皇が道鏡に皇位を譲ろうとする事件がおこったが、この動きは和気清麻呂の行動で挫折した。称徳天皇が死去すると、後ろ盾を失った道鏡はしりぞけられた。次の皇位には、藤原式家の藤原百川らによって、長く続いた天武天皇系の皇統にかわって天智天皇の孫である光仁天皇を迎えられた。光仁天皇の時代には、道鏡時代の仏教政治で混乱した律令政治と国家財政の再建がめざされた。

（引用：教科書43A～Z 2行目～44A～Z 5行目）

（記述例）

〈歴史用語以外で、意味不明な語句を書き出してみよう〉



擁立 破格 寵愛
後ろ盾 廃される たまわる

〈内容から「なぜ〜か」という疑問点を一つ以上書いてみよう〉

なぜ仲麻呂は光明皇太后を後ろ盾に出来たのか

なぜ重祚すると天皇の名前が変わるのか

淳仁天皇が「淡路」に流されたのはなぜか



【授業後に】〈「気付いたこと・学んだこと」を記入しよう〉



強い権力を手にした恵美押勝も道鏡も、
後ろ盾を失って失脚してしまった

道鏡の僧侶政治が、律令政治を混乱させた

和気清麻呂の行動が、道鏡の僧侶政治を
終わらせるきっかけになった

ワークシート②

年 組 番 氏名

〈歴史用語以外で、意味不明な語句を書き出してみよう〉



〈内容から「なぜ〜か」という疑問点を一つ以上書いてみよう〉

Blank box for writing questions.



フィードバックシート・「不明な語句」編 （抜粋）

不明な語句 Best5			
順位	言葉	人数	意味
1	生業	9	生活をしていくための仕事
2	館	7	規模の小さい城、拠点、とりで
3	通交	4	国と国とが親しく交際すること
3	国交(を開く)	4	国と国とが公式に行う交流・交際
3	外港	4	近くにある大都市にとって、海からの玄関口の役割を果たす港
3	名声	4	良い評判

Best5以外			
言葉	人数	意味	
圧迫	2	あるものの強い力が他のものに悪い影響を及ぼすこと	
支配下に属する	1	(～からの)支配を受けている	
当主	1	その家の現在の主人	
撃退	1	好ましくない敵、攻めてくる敵を攻撃して退け、追い払うこと	
基調	1	基本的な考え方や傾向	
断絶	1	関係や結びつきを断ち切ること	
証票	1	あることを証明するための札や伝票	

フィードバックシート・「内容の疑問点」編 （抜粋）

内容の疑問点	人数	理由
琉球王国が中継貿易を行った理由	18	授業で解決しよう！
日朝貿易に幕府以外の商人たちが参加できた理由	14	
和人が北海道(蝦夷ヶ島)に進出した理由	13	
沖縄で三山が勢力争いをしていた理由	6	按司(あじ)と呼ばれる在地豪族の勢力争い
蠣崎氏が力を付けた(反乱を鎮められた・蝦夷を支配した)理由	5	「館」のリーダーの中心となれる勢力があった
木綿が日本人の生活様式に大きな影響を与えた理由	4	木綿は当時、保湿に優れた高級衣料品。戦国期に栽培が広がる
蝦夷ヶ島に進出した人々が「和人」と呼ばれた理由	3	アイヌ語で和人を意味する「シサム」は元々「隣人」の意味
アイヌ民族が和人との交易を行った理由	3	元々、周辺諸民族との接触を拒まなかった民族
日本海交易の拠点が津軽(十三湊)になった理由	2	十三湊は鎌倉後期から繁栄していた港
三浦に住む日本人の特権が次第に縮小された理由	1	16世紀初期から朝鮮は貿易統制を強化

東アジアとの交易・②

〈 日朝貿易 〉 ～日明貿易との違いは？～

1392 李成桂が「朝鮮」建国、勘合制度に倣った通信符貿易の開始 (1404～ 義満)

→ 前期倭寇に苦しめられる

1419 () : 朝鮮軍が対馬を倭寇の本拠地とみなして攻撃

1443 嘉吉条約 → 通信符貿易の促進 ※対馬の宗氏との間で

: 貿易港を富山浦・乃而浦・塩浦の三浦とし、倭館を設置

1510 三浦の乱 : 貿易統制に反対した日本人の暴動



貿易の衰退

輸出品 … 銅・硫黄・刀剣・香料

輸入品 … ()・仏典

**日朝貿易に最初から守護や国人、商人などが参加できたのは、
朝鮮が()をとっていなかったため**

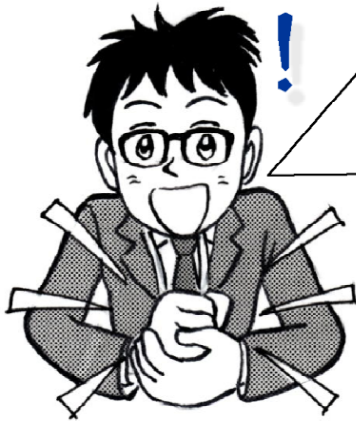
〈 琉球 〉 ～中継貿易の背景は？～

1429 中山王 () → 琉球王国樹立、中継貿易で発展

明国の() → 民間貿易から国家管理貿易に変化

「気付いたこと・学んだこと」シート

気付いたこと・学んだこと



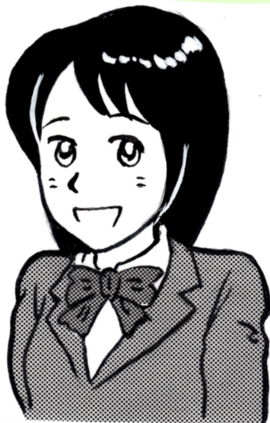
月 日 ()
年 組 番

氏名：

学び合いシート

学び合いシート

年 組 氏名：



()さん

()さん の教訓は…

()さん の活用方法は…

～私の感想～

「ケーススタディワークシート(表)」

ケーススタディワークシート

年 組 番 氏名：

Q1. これまでの授業で記述した「気付いたこと・学んだこと」から一つ選び、その文章の主語を「(一般的な)人」→「私(自分自身)」と変化させて自らの教訓にしてみよう。(裏面記述例参照)

気付いたこと・学んだこと



「(一般的な)人」を主語にすると…



「私」を主語にして自分自身の教訓にすると…

Q2. その「教訓」は、あなた自身の実生活でどのように活用できるだろうか。

〇〇(場面・状況)で、△△(起こりうる事態)の時には、□□(考えられる具体的な行動)をしよう

…などというように書いてみよう。思いつく状況をいくつでも挙げてみよう。



記 述 例

ケーススタディワークシート

年 組 番 氏名：

Q1. これまでの授業で記述した「気付いたこと・学んだこと」から一つ選び、その文章の主語を「(一般的な)人」→「私(自分自身)」と変化させて自らの教訓にしてみよう。

気付いたこと・学んだこと

道鏡の仏教政治が、それまでの律令政治を混乱させた

「人は」を主語にすると…

人は、正しいことをしたつもりでも、独りよがりだったということがある

「私は」を主語にして自分自身の教訓にすると…

私は、他の人の言うことにもきちんと耳を傾けるようにしよう

Q2. その「教訓」は、あなた自身の実生活でどのように活用できるだろうか。例えば、

〇〇(場面・状況)で、△△(起こりうる事態)の時には、□□(考えられる具体的な行動)をしよう

…などというように書いてみよう。思いつく状況をいくつでも挙げてみよう。



部活の練習計画を立てるときは、一人で決めずに、顧問の先生や他の部員の意見も聞きながらつくろう。

進路を決めるときは、自分の気持ちを大切にしながら、親や先生の意見にも耳を傾けよう。

悩み事は一人で抱えていないで、色々な人に勇気を持って相談してみよう。

色々な人から勉強のやり方を聞いて、自分に最も合う方法を見つけるようにしよう。

※すべての吹き出しに記入する必要はありません

「振り返りシート」

振り返りシート ～この授業を振り返ろう～

年 組 番 氏名：

Q. 次の①～⑦の学習活動はどのくらい役立ったと感じましたか？当てはまるものに○印をしてください。
A…大変役に立った B…まあ役に立った C…あまり役立たなかった D…全く役立たなかった

- | | |
|--|-------------|
| ① 次時の内容の「不明な語句」を書く | 【 A B C D 】 |
| ② 次時の「内容の疑問点（なぜ～か）」を書く | 【 A B C D 】 |
| ③ 毎時間の最後に「気付いたこと・学んだこと」を書く | 【 A B C D 】 |
| ④ 「気付いたこと・学んだこと」の内容を一般的な人を主語にした文章に書き直す | 【 A B C D 】 |
| ⑤ 「一般的な人を主語にした文章」を、自分自身への教訓として読み取る | 【 A B C D 】 |
| ⑥ 教訓を実生活でどう活用するか考える | 【 A B C D 】 |
| ⑦ ケーススタディを友人と学び合う | 【 A B C D 】 |

※その他に役に立ったこと、役に立たなかったことがあれば書いてください（自由記述）。

Q. 次の①～⑦の授業中の態度、授業後の成果について、A～Dの当てはまるものに○印をしてください。
A…よく当てはまる B…まあ当てはまる C…あまり当てはまらない D…全く当てはまらない

- | | |
|-------------------------------|-------------|
| ① 自分自身で不明な語句や疑問点を見つけようとした | 【 A B C D 】 |
| ② 教科書の内容理解が深まった | 【 A B C D 】 |
| ③ 「気付いたこと・学んだこと」から自分で教訓を読み取れた | 【 A B C D 】 |
| ④ 読み取った教訓を実生活で活用できそう | 【 A B C D 】 |
| ⑤ 自分には無かった考え方に気付いた | 【 A B C D 】 |
| ⑥ これから学ぶ内容からも教訓を読み取れそう | 【 A B C D 】 |
| ⑦ 他科目の内容からも教訓を読み取れそう | 【 A B C D 】 |

※その他にできた（できるようになった）こと、できなかったことがあれば書いてください（自由記述）。

Q. この授業の感想を書いてください。